宮古街道と繋がる町家

昭和8年（1933）に建てられた比較的新しい町家で、母屋は店・2階の各天井を高くとったため、周辺でひときわ高い。このため常居の吹き抜けも特に高くなり、神棚も大きい。

岩手県立工業高校（現：盛岡工業高校）を昭和5年に卒業した鎌田与助の設計で一部に洋風構造の胴差工法を取り入れ、町家も近代化が進んだことを示す。通り土間は常居のところで切れ、常居が玄関座敷の役目をしている。角地であり、脇の道に門があり、ここから表は常居に入り、裏は勝手口に入る。正面玄関に精米所があることも原因している。宮古街道筋で塩を取り扱っていたことから「塩重」と呼ばれ、現在は米穀店に変わり、米重商店となった。

（もりけん本スーパーver.2より）